（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2773600313		
法人名	有限会社　采建設工業		
事業所名	グループホーム　希望　1階		
所在地	大阪府交野市東倉治３－８－１１		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　親和ビル4階
訪問調査日	平成24年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気と季節感を感じて頂けるよう、①農園づくり（草花や野菜のお世話、収穫）②季節ごとの壁画づくり③季節ごとの行事　を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホーム希望は、平成23年3月に、事業所の合併に伴い、従来の事業所（平成13年12月設立）の所在地私市から現在地の東倉治に移転し、木造2階建ての、2ユニットで開設された。ホームは、管理者の長年（19年余）の介護の実践経験を活かした想いを形としている。丘陵地の自然の豊かな緑、広く大きな敷地内には、生垣の樹木に囲まれた芝生の庭や農園も在る。利用者は四季折々の季節を感じながら、家庭的な楽しい日常の暮らしを営む静かな環境が在る。管理者、職員は理念の「お年寄りの命を介護する」を、認知症のお年寄りの人生を、手・足となって「命」を支える者でありたい、そして、つらい、苦しい、悲しい、を楽しいに変える事を目指す、これらの具現化のために一体となっての実践している姿が見られる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『お年寄りの命を介護する』を理念とし玄関に大きく表示し、毎日見るようにしている。	理念を「お年寄りの命を介護する」とし、玄関の入り口に大きく墨で揮毛して掲示している。管理者、職員は日常的に理念を確認、共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕を行事とし、笹をホームの入り口に設置し地域の方々に短冊を書いていただくようにした。12月にはイルミネーションを飾り、地域の方々に楽しんでいただいた。	七夕祭り、花火大会、クリスマス会等での地域の人々との交流を実施している。運営推進会議や地域包括支援センターを通じての、地域や職員との交流もある。今後は、さらに地域との交流を深める様な企画が課題である。	地域住民の方々への認知度を高め、気軽に来訪できる施設となるための、企画や行事内容が検討されているので、今後の地域との積極的な交流が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関しての問い合わせや見学もあり、随時専門性を活かした説明をしている。市における認知症サポーター事業にも参加するように登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたご意見を職員で再度話し合い、サービスの質の向上に生かすように努めている。	平成23度は、年6回会議を開催した。参加延べ人員は32名であった。参加者は、利用者代表、家族代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会等の参加で、双方向的な会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会や介護相談員連絡会に参加し、様々なテーマでの意見交換を行い、協力関係の構築に取り組んでいる。	日頃から、市が開催する各種会議に参加して、市の担当者との相談・情報交換をしている。毎月1回は、2名の介護相談員の派遣を受け入れ、利用者の各種の相談・指導を受けながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束ゼロ宣言』の研修にも参加し拘束という行為を正しく理解するように事業所全体で努めている。	管理者及び職員は、身体拘束をすることの弊害は理解している。玄関の出入り口は施錠をしているが、利用者の戸外への出入りには即応体制をとり、見守りを重視し、できる限り開放感が得られる様に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修にも参加し、事業所内の職員にも周知し毎月の職員会議の中でもお互いに気をつけるように話し合っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市が開催している成年後見人制度についての研修にも参加し、今後も必要に応じて活用して行けるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の内容を説明し質問などには全て答える様にしている。解約時には家族等に十分な説明を行い納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、月1回介護相談員を受け入れ利用者の意見を反映出来るようにしている。日常生活の中で個々に不満や悩みに傾聴し出来る限り解決している。	苦情相談窓口を設置し、担当者による意見・苦情・不安への対応をしている。定期的に、希望便りを発行して、各種行事や利用者の日常生活等を家族に報告し、家族連絡表やケアプラン作成報告書での意見の傾聴もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議において、業務・ケアに関する検討対策を行っている。又、普段から職員との意見交換を行い、運営に反映させている。	毎月定期的に職員会議を開催して、職員の様々な意見・提案を聞く機会を設けている。特に、ケアの質や援助技術の向上等の意見交換を行ない、各種の意見を聞き、管理者は常に職員との意志疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者と職員がコミュニケーションをとることにより、職員個々の能力を認め、お互いに向上心を持って働けるように、関係構築に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった外部研修に参加し、スキルアップに努めている。又、現場で起こる様々な事に関しても、皆で対応して行けるようにトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やグループホーム交流会での他施設との情報交換や、事業所相互見学会での活動を通じて、良い所を吸収し、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入所期間を活用し、信頼関係の構築に努め、本人の思いや生活の様子を把握する様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談や見学時等でも、御家族の思いを聞き、利用にいたるまでには十分に話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況によって、他のサービスの方が適していると思う時は、十分な説明を行い他施設への利用も支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子を随時報告し、ご家族の協力を得ながら共に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話の際には、利用者様の様子や変化等、近況を報告している。又、御家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙のやり取りのお手伝いをさせてもらっており、その関係が途切れないように支援している。又年賀状、暑中見舞いを手作りで出している。	利用者の生活歴や家族からの情報を収集し、利用者が従来からの日常生活の継続性を確保した支援をしている。親しい友人、知人の訪問や馴染みの商店での買い物、手紙書き等での支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあえるように、レクレーションや夜の集い、ナイトラウンジ等の場を提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の意向を聞きだす様にしている。ご家族からの情報をいただく事も心がけている	アセスメントシート、業務日誌、家族連絡表、日々の関わり等により、利用者の生活歴や暮らし方の希望・意向を把握し、把握しづらい面については、家族との意思疎通を図り、利用者の自己決定を促がす支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者生活歴を作成し、入所に至るまでの生活歴や趣味、嗜好等記入し職員が介護に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の介護記録や申し送りを通して把握するようにしている。又、毎月の職員会議の中で一人一人の現状を把握するように努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題分析から職員に気づき情報等を集約し、カンファレンスを経て介護計画を作成している	フェースシート、アセスメントシート、個人記録、各種ケアシート、業務日誌、本人、家族、職員等から、各種個人ケア情報を収集して、介護計画書が作成される。見直しは、毎月1回、モニタリング実践記録表で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録や特記事項を詳しく記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。計画内容の変更やその後の評価等も記録に残していくように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアの利用、地域の介護タクシーの利用、ガイドヘルパー利用等、本人が楽しむ事ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を受けており、入居時に説明し承諾が得られた場合は主治医を変更して頂いている。他科受診の場合には家族と医師と相談し行っている。	あくまでも、本人及び家族の希望を尊重してこれまでのかかりつけ医が継続されている。事業所の協力医療機関で受診する場合には、本人及び家族の納得と同意を得て支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診を受けているかかりつけ医に24時間体制で対応、相談できる体制をとっており、その都度適切な受診が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、定期的にスタッフや利用者方と面会に行き、その際、病院関係者に現状況を聞き早期退院にむけての情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合には、入居時にも説明しているが、知見の深い医療関係者との連携を図りながら、改めてご家族とその都度相談しながら方向性を決め取り組んでいる。	「重度化及び看取りに関する指針」や「緊急時の医療対応への同意書及び事前指導書」があり、早い段階から、その時々の事業所の力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極め、必要に応じて関係者の連携が取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを活用し全職員が対応できる様に定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部による訓練を受けており、地域の方々には、緊急時ご協力お願いシートを作成し、協力依頼をしている。	年2回の消防署の避難・救出訓練は実施している。緊急時にご協力お願い書を作成し、地域の方々に配布して、協力体制を築いている。全職員の避難・救出訓練の実施頻度と自治消防隊等への連携が課題である。	年2回の消防署立会いの避難・救出訓練への全職員の参加が不十分であり、今後は、確実に年2回は参加し、自治消防隊等へも働きかけて、緊急時の協力体制の構築が期待される。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には、人生の先輩として敬う心で接するように指導している。又、言葉づかいは職員同士でチェックし合うように努めている。	プライバシー保護マニュアルを作成し、定期的に職員の研修を実施し、職員全員が対人援助サービスの知識と技術を身につけるように取り組んでいる。人生の先輩に対して、尊厳やプライドを損ねない対応がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で選択肢を増やし、決めごとを実行するのではなく、本人の決定に基づいた対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの一日の生活の流れに沿いながら、一人ひとりの生活のペースを大切に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの一環として取り組んでおり、出掛ける際には、衣類の選択や美容などのお手伝いを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片づけなどできる事を見極め、できる範囲内で行って頂いている。	食は健康寿命の源と捉え、職員は随時利用者の嗜好を聞き取り、食事内容に反映させている。外部委託ではあるが、管理栄養士の指導の下に、「旬」の新鮮な食材を利用して、彩食豊かな食事提供が実施されている。食事は、家庭的な雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、チェック表を活用し、目標の食事量、水分量を決めて、バランスがとれるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに努めており、定期的な訪問歯科受診を受け、個々に応じたケアを指導して頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿便チェック表を活用し、排泄パターンを把握することにより、トイレ誘導を行い自立にむけた支援をおこなっている。	排尿便チエック表（時間を記録）で個人別の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促がし、自立を目指した支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排便を促せるように運動等個々に応じた予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてはいるが、希望があれば昼夜問わず対応できるように努めている。	入浴は原則として週2回としているが、利用者の希望に沿って柔軟に対応をしている。清潔な個浴槽で、ゆったりと、快適な気分での入浴を心がけ、浴槽内での安心・安全を配慮した対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングで過ごされる事が多いが、昼寝の時間をとるようにし、安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を業務日誌に綴じ、個々の薬剤情報を確認し理解する事に努めている。必ず目を通し、サインする事を徹底している。又、薬変更時には個人記録、薬手帳に記載しその後の経過等を観察するように、努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人にあった『お楽しみ当番』を設け、支援するように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩にはいつでも行ける様に努めており、普段は行けないような場所は、情報収集を行い、相談しながら個別処遇として行っている。	利用者の体調や健康状態を考えて、天気が良ければ、近隣の散歩、買い物等での支援をしている。希望により、家族の協力を得て、お墓参りや遠方場所へのドライブも実施している。玄関前の樹木に囲まれた芝生のある、庭での外気浴や日光浴の楽しみもある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症状による入居者同士のトラブルにつながる為、お金はホームで管理している。希望があれば、スタッフ付き添いの上、お金を所持していただき使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけたい時にかけて頂き、手紙のやり取りも自由にしていただける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、、季節の壁画や、創作物を掲示し、玄関や食堂にはお花を飾ったりしている	広い敷地内の玄関前に、緑の樹木に囲まれた芝生の庭には白い机と椅子、農園の立て札内には、四季の草花が咲いて来訪者の心を和ませる。食堂兼居間は、採光で、明るく、ゆったりとして開放感がある。全床はクッション材で転倒予防をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間でのソファーやマッサージチェアを思い思いに利用できる、又庭にあるベンチで談笑できるよう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の写真や思い出の品を置く様にしている。入居時に使い慣れた家具や馴染みの品を持って来て頂くように説明させてもらっている。	清潔な居室の窓からは、山の自然の木々の緑が観える。明るい居室には、馴染みの物が置かれて、従来の生活の継続性を確保した暮らしがある。ナースコール、スプリンクラー等も設置され、安心・安全な環境がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	標識等は大きくし、必要な所には手すりを設置し自分で移動できるように配慮している。		